

事業名

NPOと地域と未来をつなぐ新たなしくみづくりモデル事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>【目標数値】 ○NPO等のネットワーク構築 参加率50%、○コーディネート型の地域人材の育成 1期生30人、○NPO等と地域の団体をつなぐ情報誌の発行 3回、発行部数 900部 (300部×3回)、○NPO等の団体間の交流、マッチング会の実施 2回</p> <p>【達成状況】 ○NPO等のネットワーク構築 参加率10% (19団体/187団体)、○コーディネート型の地域人材の育成 1期生28人 (コミュニティプログラム参加人数)、○NPO等と地域の団体をつなぐ情報誌の発行 3回、発行部数 900部 (300部×3回)、○NPO等の団体間の交流、マッチング会の実施 2回</p> <p>当初は、ネットワーク構築のために、広く参加を募ることを考えていたが、事業実施の中で、協働事業の積み重ねからネットワークを広げていくことが有効であることが実証された。</p>	3
2	市民性	<p>新しい公共基盤整備事業においては、NPO等の団体34団体にヒアリングを実施し、ワークショップにおいても19団体が参加した。また、NPOと地域が協働して実施した内容をニュースにして、市内182自治会に計3回の回覧を実施した。この回覧をきっかけに地域の民生・児童委員の目にとまり、NPOの事業を紹介する研修会の実施につながり、NPOが地域の中で信頼を得るきっかけになった。協働事業実施に向けた地域への事前説明と、協働事業の情報発信のしくみがNPOと地域をつなぐ新たなしくみとなったといえ、今後継続される取り組みの中で評価されていくものと考えている。</p>	3
3	波及効果	<p>NPO等との協働事業の積み重ねとその協働事業の情報発信のしくみの構築並びにNPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備に向けた事業を組み合わせた本事業は、今後、安心・安全な地域づくりを進めていく中で、地域社会の担い手不足を補う地域のしくみとなり得るものと考えられる。協働事業を通じてNPOへの理解が深まることで、地域の信頼が得られ、今まで地域に関心が薄かった地域住民の関心が高まり、自主的・自発的な地域活動への参加につながっていく。また、コーディネート型の新たな人材も生まれるとともに、多様な団体を巻き込んだ新しい事業も展開され、これらを通して新たなコミュニティ再生の契機となる。</p>	4

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

4	継続性	<p>今回の成果は、市民活動支援を目的に平成 25 年 2 月にオープンした子ども未来センター協働スペースを拠点として展開する事業に引き継がれる。この協働スペースを運営するのは、今回、NPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備を委託した事業者であり、この先 10 年間にわたり、協働スペースを運営することになっている。地域の諸課題解決に向けて、今回のモデル事業の成果をさらに発展的に継続し、コーディネート型の新たな人材発掘と、多様な団体を巻き込んだ新たな事業をコーディネートすることで、コミュニティ再生の契機が生まれることが見込まれる。</p>	4
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>今回の事業では、立川市と地域の中で多方面な活動実績があるNPO法人「育て上げ」ネットが協働して事業のまとめ役となった。また、実践的な事業をNPO法人が実施し、地域住民との橋渡しを立川市自治会連合会に、市民活動団体との橋渡しを市民活動センターたちかわが担ったことで、今回の成果であるNPO等の情報収集やネットワーク構築・人材育成による新しい公共基盤整備と協働事業の積み重ねによるNPO支援の枠組みを導き出すことができたといえる。今回は、実践的な事業の実施をNPO法人が担ったことで、地域における負担が軽減されたこともマルチステークホルダー・プロセスの効果といえる。</p>	4

合計点

18

ランク

A